

境港市一般廃棄物処理基本計画（令和5年3月改定）の進捗状況について

令和4年(2022年)度の本審議会において、4回の審議を経て改定されました「境港市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）」（以下、本計画）について、改定時に掲げました目標に対する進捗状況をご報告いたします。合わせて、今年度の取り組みについてもご報告します。

1. 本計画の基本方針

本計画では、5つの基本方針（①4R（発生回避、抑制、再利用、再資源化）+Renewable（再生資源への代替等）、②プラスチックごみの抑制、③食品ロスの削減、④啓発・情報提供の充実、⑤ごみの適正処理）を柱とし、具体的に令和9年度に向けたごみ排出量の削減目標等を掲げています。この目標の達成に向け、市民・事業所・行政が各々の役割を果たし、一般廃棄物（ごみ）の適正排出・処理及び循環型社会形成の実現に向け努力することにより、今、そして、これからの世代が心地よく暮らし続けられる境港市を目指そうとしています。

2. 目標値達成に向けた進捗状況

本計画改定時に掲げた目標値は、鳥取県西部広域行政管理組合が令和14年（2032年）度に向け、鳥取県西部圏域で削減したいごみの目標量として掲げていた値を念頭に、それよりも更に進んだごみの削減を目指し設定したものです。設定にあたっては、令和4年9月に実施した家庭系収集ごみの組成調査の結果（家庭から出る可燃ごみの約4割が生ごみだったこと）や過去のごみ収集量の傾向等を踏まえ、以下の方向性で値を設定しました。

【ごみ排出削減目標・分別徹底目標（基準年度：令和3年（2021年）度）】

- ① 「家庭系収集可燃ごみ」のうち、生ごみ（手つかず食品・調理くず・食べ残しなど）の排出量を令和9年（2027年）度までに5%削減する。
- ② 「事業系許可搬入可燃ごみ」を令和9年（2027年）度までに5%削減する。
- ③ 「家庭系収集可燃ごみ」と「家庭系収集不燃ごみ」に混ざっている資源化可能なもののうち令和9年（2027年）度までに15%を分別徹底（再資源化）する。

以上の方向性により設定した値と実績との比較は以下の通りです。

項 目	基準年度 実績(R3 (2021))	R5(2023) 実績	R9(2027) 目標値	目標値と の差
1人1日当たりのごみ排出量 (許可資源ごみ量除く)(g/人・日)	847.2	817.3	818.4	目標達成
家庭系収集ごみ1人1日当たりごみ排出量 (資源ごみ量除く)(g/人・日)	485.2	457.1	452.6	△4.5 <small>(進捗率 86.2%)</small>
事業系ごみ排出量(資源ごみ量除く)(トン/日)	6.46	6.49	5.93	△0.56
リサイクル率(%)	35.7	33.1	37.2	△4.1

- ※「1人1日当たりのごみ排出量」は、令和5年（2023年）度段階で目標達成
- ※「家庭系収集ごみ1人1日当たりのごみ排出量（可燃・不燃・粗大）」は、あと一步で目標達成（進捗率 86.2%）
- ※一方で、「事業系ごみの排出量」に注目すると、資源ごみは減少している一方、可燃ごみは微増している（→この影響と古紙の収集・処理量が減少していることなどから「リサイクル率」の減少が生じている）

3. 令和6年（2024年）度の主な取り組み

本計画改定時に掲げた重点的取り組みに沿いつつ、前項で触れた進捗状況を反映した、令和6年度の主な取組は、次のとおりです。

① 食品ロスの削減・コンポストの普及啓発

昨年に引き続き、鳥取県と協力して、捨てられてしまう食品の寄付を募り、食糧支援団体に届ける「とっとりフードドライブ」活動を計2回（R6.10.4～10.18、R7.1.20～1.31）展開し累計77品目、約24.3kgの食品を境港市社会福祉協議会に提供しました。

また、境港商工会議所ご協力のもと、年末年始に向け、宴会の最初の30分・終わりの10分は席で提供された食事を楽しもう（＝食品ロスを削減しよう）という「30・10（さんまる・いちまる）運動」の市内飲食店への呼びかけも実施しました。

このほか、生ごみの分別・再資源化に向けた意識醸成の目的で昨年好評だったダンボールコンポストセットの無料配布を実施したほか、家庭用生ごみ堆肥化容器の購入費補助も継続展開し、制度開始以来約1年半で45件の補助申請がありました。



フードドライブで集まった食品の数々

（左）第1回（30品目 約13.3kg）（右）第2回（47品目 約11kg）

② 分別徹底の啓発（各種イベントでの啓発活動）

4月以降、市内企業の要請で外国人技能実習生向けのごみ出し・分別講座を10回以上実施し、今後も複数回実施を予定しているほか、地域サークルでのごみ分別ゲームつき出前講座（今年は「渡まめな会」、「森岡元気になる会」など）も実施しました。

それに加え、今年は10月の「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」において、境港市内の2か所の競技会場（みなとテラス（eスポーツ）、境港市民体育館（ソフトバレーボール））でダンボールコンポストの実物と資源循環モデルのパネル展示を行ったほか、11月の「第15回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 境港」では、使用済みのプラスチック（ポリスチレン）

食器類を、会場現地で回収・リサイクル処理し、再び新しい食器を作るための原料にする試みなどが行われ、1トン以上のごみの分別・リサイクルを行いました。



にぎわう会場の様子(第15回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 境港(令和6年11月))



Sea 級グルメで使われたポリスチレン食器を会場内で再資源化(専用の機械に投入し原料化)

③ 事業系ごみ削減への取り組み

令和5年度実績からの示唆を踏まえ、事業系ごみの取り組みを強化するにあたり、今年度は、まずそもそも事業系ごみとして排出されているごみにはどのようなものがあるのかといった「ごみの組成」を調査しました(結果の詳細については次の議事(3)で報告)。

他方で、県の新規事業(鳥取県4R推進アドバイザー派遣事業)に関心を示した市内の大型事業所(済生会境港総合病院)に対し、環境省認定の専門家に県と同行して現地訪問を行い、病院棟内のごみの分別適正化や廃棄物の再資源化に向けた助言を行いました。



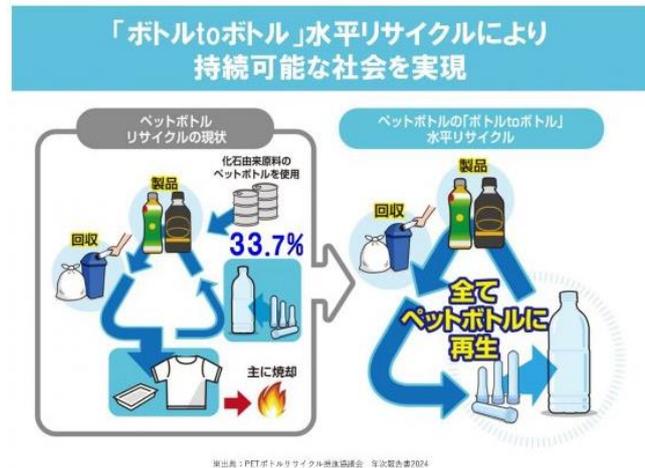
組成調査の様子(集めた「事業系ごみ」を破袋し、中身を種類ごとのかごに分別し、計量している(令和6年9月 境港市リサイクルセンター))

④ ペットボトルの国内水平リサイクル「ボトル to ボトル」推進

令和7年2月12日に本市と鳥取県西部広域行政管理組合及び鳥取県西部再生資源事業協同組合は、サントリーグループ（東京都港区）並びに永伸商事株式会社（大阪府大阪市）と協定を締結し、ペットボトルの国内での水平リサイクル推進で協力していくこととなりました。

水平リサイクルは、使用済みのペットボトルを新しいペットボトルに再生することで、何度でも資源を繰り返し利用することが可能となるリサイクル法であり、

新たな石油由来原料から新しいペットボトルを製造する場合に比べ、二酸化炭素排出量を約60%削減することが可能となります。



4. 計画目標年度（令和9年（2027年）度）に向けた展開

・家庭系ごみへの取り組み継続（分別の徹底は強化）

（例）出前講座の継続実施、食品ロス削減に向けた取り組み（社協との連携による「フードドライブ」の展開、食育とのコラボ）、ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」PR（特に新築アパートへのチラシ投函など自治会未加入者へのアプローチ推進）、生ごみの水切り勧奨など

・事業系ごみへの取り組み強化

…事業系可燃ごみに分別・再資源化の余地はあるのか→次の議事（3）へ

…可燃ごみ量の漸増傾向、資源ごみ量の漸減傾向

→単年度に留まらない「傾向」には「地域の連携」で対応

-商工会議所や基幹産業（水産（加工）業）との協力・連携

-食品リサイクル法にもとづく登録再生利用事業者との連携（山陰地方の登録業者は2社…両方とも境港市（山陰エコシステム・錦海化成））

-県との連携

-広報・啓発の強化